

シリーズ各區ですすむ住民主体のまちづくり

緑と浜風のかおるまち、灘

今回は、灘区でのまちづくりの取り組みを紹介します。

1. 灘区の成り立ち

神戸市が誕生した明治22年、灘区では村々がまとまって、六甲村、都賀野村、都賀浜村の3つの村が誕生しました。その後、明治28年に都賀野村は西灘村に、大正3年に都賀浜村が西郷町と名称を変え、昭和4年には西郷町と西灘村・六甲村が神戸市と合併し昭和6年に現在の灘区が誕生しています。1町2村からなる灘区地域コミュニティは今でも当時の結びつきがベースになって形成されています。

2. 灘のまち

灘は、区民が身近に自然と親しむことのできる摩耶・六甲エリア、落ち着いた住宅地の中に大学が点在する緑豊かな山手エリア、新旧の商業機能が集積し住と商が混在する中央エリア、そして古くからの酒蔵や工場が集積する浜手エリアと、大きく4つのゾーンに分けてまちの特徴を語るすることができます。震災後は社会経済状況の急激な変化もあって特に浜手ゾーンでの土地利用が大きく変わってきており、今後の灘のまちづくりの重要なポイントとなってきています。

3. 灘のまちづくり

灘区では、まちの将来像を「六甲・摩耶の緑と浜風のかおる住みよいまち」とし、3つの南北軸「六甲生活文化軸」「都賀川緑地文化軸」「灘文化軸」を重要視した都市整備を通じて“住みたいまち、住み続けたいまち”の実現を目指しています。具体的には、住民主体によるまちづくりの支援および住民との協働を念頭に、美しいまち・安全で安心なまちの実現を目指し、学生や区民と行政の協働による「丸洗いプロジェクト」や「ちょっと気配り灘のまち」、区長と市民が一緒に行う「わが町点検」の実施。また、魅力あふれる元気な

まちづくりとして、区民の交流促進を目的とした「桜まつり」の開催、情報誌「なだだな」の発行や、今最も力の入っている「灘百選」を生かしたまちづくりを展開しています。



4. まちづくり協議会によるまちづくり

灘区内では18のまちづくり協議会が設立されていますが、その多くは震災後のまちの復興を目標に、都市計画事業地区内で結成されたものです。事業地区以外の地区(白地地区)では、平成2年に結成された「新在家まちづくり委員会」「味泥まちづくり委員会」と震災後の平成7年に結成された「灘中央地区まちづくり協議会」、10年に結成された「大石南町まちづくり協議会」があります。この4つのまちづくり組織の活動は、それぞれの地域の特性を活かし・伸ばし・発信する形で継続されていて、「協働と参画」を基本とするまちづくりの、まさにお手本と言えるでしょう。

(最終面につづく)

台湾の復興まちづくりから

台湾中部で発生した集集大地震からすでに5年が経過した。私は震災2ヶ月後に神戸市からの派遣で台湾を訪れて以来、台湾の復興に興味を惹かれその後たびたび訪れることになった。その復興の一つの柱として、農村部を中心としてユニークなまちづくりが展開して来たことはあまり知られていない。そこでこの場を借りてそのごく一端を紹介してみたいと思う。

台湾の地震被害は、以前から人口の流失、高齢化の進行、伝統的な農業や産業の衰退という課題を抱えていた農村部、山間部に広がったのが特徴である。したがって復興はこうした問題に直面したが、まちづくり的な取り組みの中で困難を克服し、復興の活路を見出つつある地区も少なくない。そうしたまちづくり地区の主要テーマとして農村部の産業振興や高齢者の生活支援が目立っているのは、被災地の現状を如実に示しているといえる。ここでは二つの事例を紹介しよう。

「生態村づくりで再建・桃米村」

桃米村は有名な観光地日月潭からさほど遠くない369戸の村で地震によって大きな被害を受けた。当初は再建の方向が見えなかったが、近くの町（埔里）で活動する新故郷文教基金会（NPOのようなもの）の支援を受けて、村民たちで再建の方向を討議した結果、豊富な自然環境を生かした「生態村づくり」で再生する道を選んだ。はじめは「そんなことで再生できるのか」と確信がもてなかったが、専門家による生態系の調査、村民たち自身の教育学習、さらには蛙、トンボなどの解説員になる活動、そして村民が参画したピオトープの造成などを通じて次第に生態村づくりの確信



村民が参画して作ったピオトープ（桃米村）

が深まっていった。そして村を訪れる人たちが増えるにつれ民宿の建設や産品づくりも始まり、生態村と観

光・産業・雇用の結びつきも進みつつある。桃米村ではまちづくりの成果が一応形になってあらわれたといえるが、今後は外部からの人的、資金的支援を活用しながらも、次第に自前で運営していくことを目指している。まちづくりの持続と深化はいずれの場合も重要な課題といえそうだ。

「生きがいあふれる仮設老人コミュニティ・長青村」

台湾の高齢化はまだ日本ほどではないが、今急速に進展している。ここでは仮設老人コミュニティとも言うべきユニークな事例を紹介しよう。大きな被害に見舞われた埔里鎮の町外れにある菩提長青村である。地震後身寄りの無い老人のケアの重要性に気付いた陳芳姿夫妻は、埔里鎮役所、YWCA、華僑銀行行員の協力のもと老人のための75戸の仮設住宅村を完成、その



仮設とは思われないたたずまい（長青村）

後各界の支援を得つつ自ら村長となって老人コミュニティを運営してきた。今も40人ほどの老人がここで暮らしている。長青村には単に居住スペースだけでなく食堂、診療所、仏堂、礼拝堂、図書室、陶芸教室あるいは菜園などがある。当初は普通の仮設住宅といった様子だったが、その後老人たちの手作りで村中花や草木が植えられ、亭や様々な造形が施されるなど、今では全体が一大家庭にふさわしいたたずまいとなっている。老人たちは三食のほか様々なサービスが無料で受けられるが、野菜作り、村経営のコーヒー店のサービスなど自分たちもできることは参加するし、それが尊厳と生きがいを取り戻す大きな力になっている。長青村は仮設であるため今後の行く末に課題を抱えているが、「高齢化を迎える社会の実験ポイントだ」と村長夫妻が熱をこめて語ったのが印象的であった。

垂水英司（こうべまちづくりセンター）

WS活動を振り返って

By 阪田 伸雄（プラン まち さと・WS隊）

この度、半年間ワークショップ隊として様々な経験をさせていただいたと思う。研修会で、ワークショップに必要な技術習得や隊員としての経験から随分「成長」することが出来ました。



特に技術習得と言う面に関して、ただ無造作に住民の方の意見をまとめるのではなく意見を出やすく、わかりやすく、そして議論しやすいようにまとめていく方法などは、正直、場数を踏んでいく必要があると痛感した。住民の方と向き合っ、聞き入れていくことが重要だと。それに住民の方の気持ちや思い入れをワークショップ中に汲み取ることも大切な技術だと反省したことも多々あった。住民の方のとても前向きな気持ちが、そこに住む情熱なんだと実感した。

僕の地元は舞子で、そこに今起きている様々な自治会レベルの問題をかいま見る事ができた。それによって自分自身が舞子の町を更にまた好きになったことである。このワークショップ隊を通じて地元の現状を少しでも理解できたことはとても勉強になり、それが「成長」につながったと思っている。まちづくりの難しさと複雑さである。だからこそ知らなかった地元の問題がわかり、身が引き締まる思いがした。

また地元の方から、若い力の参加などの声が大きかったこと。現代社会で仕事重視で、地元無視の状態は「あたりまえ」の様に若者に意識化されていていっていることはたしかであろう。時代と世代の変化に町全体がどう対応していこうとしているのか。町の伝統文化など「引き継ぐ」のではなく、今は、若者中心に「つくっていく」という意識変化が求められているのではないだろうか。それが、彼等、彼女等の個性や意欲を町に取り戻し、町の活性化を促進することにもつながると感じたこともあった。町の伝統文化の継承の大切さと町での若者の個性育成との両立が今後、重要になっていくんだろうと思う。

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

11月 1日(月)～19日(金)	まちなみ緑化コンクールパネル展	神戸市 神戸市公園緑化協会
11月22日(月) ～12月10日(金)	メロディーブリッジコンテスト	建設局道路部計画課

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テ ー マ	主 催 者
11月 5日(金)～23日(火)	まちづくり会館ギャラリー企画展 神戸・元町 130周年記念事業協賛 神戸・東京鐵道錦絵の世界 詳しくは、 あーばんとーく10月をご参照ください	こうべまちづくりセンター 神戸市立博物館

5. 今後のまちづくり

灘区の人口は4月現在で12万6千人程、区域面積は31.4km²。この数字は「奈良県・橿原市」「大阪府・富田林市」とほぼ同じになります。背面に緑豊かな山を、前面には穏やかな青い海を持ち、恵まれた自然と共に多くの歴史資産を有しているこのまちが、今後どのような特徴と個性を發揮し発信していくのか。

中期的には現在策定中の「灘区の中期計画」にゆだねることになりますが、橿原市や富田林市に負けない存在感のあるまちとなっていくためには、震災復興のまちづくりが一段落したこれからは、区民と区・事業者の協働によるまちづくりの本番と言えるでしょう。

6. おわりに

「まちづくり」という言葉が初めて公式の計画書に出てきたのは昭和43年に京都市が策定した京都市基本構想とされています。まちづくりの定義を「よいまち・住みやすいまちをつくること」とすると、その範囲は行政のすべてに関係します。よいまち・住みやすいまちを実現するためには、それぞれの立場でこの目標を明確に持ち、立場を超えて協力しあうことだと感じています。

(灘区まちづくり推進課)

まちセン ライブラリーニュース

こうべまちづくりセンター図書室
まちづくり会館4階・TEL 361-4523
開館時間 午前10時～午後6時
休館日 水曜日・年末年始

新着図書のご案内

図書ID	名称	大分類名	著者名	発行元	発行年月	頁数
003068	コミュニティガーデンをつくらう	土木・緑化	世田谷まちづくりセンター	世田谷都市整備公社	98年3月	120
003069	参加のデザイン道具箱part4	まちづくり	-	世田谷都市整備公社	02年11月	156
003070	ファシリテーター入門	まちづくり	エコ・コミュニケーションセンター	柘植書房	02年6月	213
003071	神戸市史 行政編Ⅱ	神戸	神戸市史編集委員会	神戸市	02年3月	-
003072	神戸市史 産業経済編Ⅱ	神戸	神戸市史編集委員会	神戸市	99年3月	-
003073	浪漫・亀の尾列島	教育・文化	小松光一	論創社	01年8月	318
003074	まちづくり・都市計画なんでも相談室	まちづくり	柳沢厚・野口和雄	ぎょうせい	02年11月	208
003075	都市再生のための防災まちづくり	都市開発・再開発	防災都市づくり研究会	ぎょうせい	03年2月	261
003076	NPO基礎講座2	その他の図書	山岡義典	ぎょうせい	98年8月	230
003077	基本まちづくり事典	総記	まちづくり研究会	ぎょうせい	00年12月	4097
003078	都市のデザイン	都市計画	都市美術研究会	学芸出版社	02年8月	238
003079	21世紀を拓く 地域づくり読本	都市計画	小林宏行	文理閣	02年8月	217

当センターにふさわしい、図書・資料をご紹介ください。担当：橋本まで。

※ギャラリーのご案内は、3面に掲載しています